

父は盧溝橋事件の翌年、召集され中国へ
家族にあてた戦地からの手紙

「亡くなった父は、戦地でのことは、
いっさい語りませんでした。
語りたくなかったのか。語れなかったのか」

父に代わり、娘が読み解く120通の手紙

一人の若い兵士の目がとらえた侵略と戦争の現実
日本社会を加害と被害の両面から問い直す



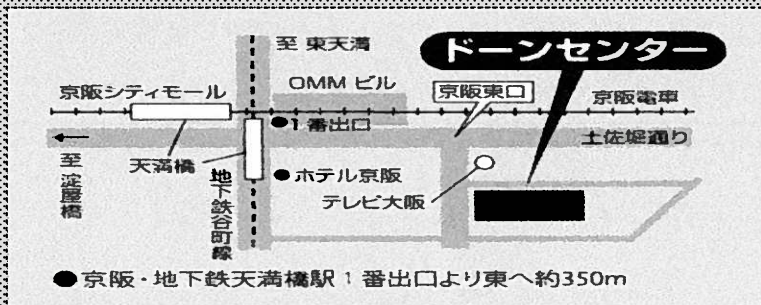
家族にあてた 戦地の様子を伝える手紙



紅谷さんがまとめた「戦地
からの手紙—父と日中戦争」

日時 2017年10月8日(日)
14:00~16:30 (開場13:45)
会場 **ドーンセンター (天満橋)**
特別会議室 (5階)

- 紅谷章子さんの講演(「戦地からの手紙」编者)
- コメンテーター
郷 燦さん (大阪大大学院助教) 竹端美美恵さん (元日赤病院看護師)
- 資料代 500円 (先着順 100名)



主催・問合せ: 日中友好協会大阪府連・女性部

06-6372-8131 info@jcfaosaka.org

日中不再戦・平和友好2017 講演とシンポジウム

「戦地からの手紙—父と日中戦争—」が語るもの

日中戦争開戦八〇年 南京大虐殺八〇年

日中不再戦・平和友好2017 講演とシンポジウムのご案内

今年2017年は、日中友好運動において、1972年9月に日中共同声明を発表し、日本と中国が国交を正常化してから45周年になります。盧溝橋事件80周年、南京大虐殺から80年であり、再び戦争をしないと世界に誓った日本国憲法施行70周年を5月に迎えました。歴史を鑑とし現代に生かすことが求められています。

今回、大阪府連の会員である紅谷章子さんが戦後70年に当たる2015年に上梓された「戦地からの手紙―父と日中戦争―」を題材にした講演とシンポジウムを企画しました。

父上が大陸戦地から家族に寄せた120篇の手紙から、日中戦争に動員され、過酷な運命に翻弄された一人の若い兵士の目でとらえられた侵略と戦争の現実に学び、同時にそれは彼を送り出した日本社会を加害と被害の両面から問い直すことでもあります。

ご多忙とは存じますが、ぜひご参加下さいますようお願い申し上げます。

日中友好協会大阪府連合会
会長 渡辺 武

< 講演者・コメンテーター紹介 >



紅谷 章子さん (元 大阪夕陽丘学園高校校長)

大阪女子大学(国文学科)を卒業し、大阪女子学園(現大阪夕陽丘学園)高校教諭、校長を務め2007年退職。



鄒 燦さん (日中戦争研究家 大阪大学大学院助教)

近現代日中関係、日中戦争をめぐる相互認識の比較研究、政治的シンボルと記憶についての研究



竹端 芙美恵さん (元 日赤病院看護師)

看護学校を卒業後、大阪日赤病院に勤務。在職中は、職員の処遇改善、働き続ける職場づくりに全日赤労組役員として奮闘。